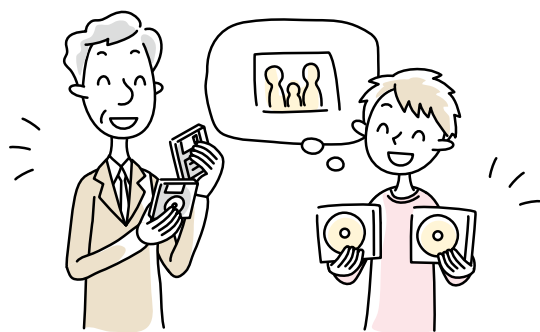




被災したデータを復旧し 笑顔を取り戻す

Point 1 世界に例を見ない、海水の被害からの復旧

Point 2 データの復旧で笑顔を取り戻す



阿部 勇人

Abe Hayato

株式会社データサルベージコーポレーション
代表取締役

株式会社
データサルベージ
コーポレーション

- 本社
東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル
B1階
- 代表者
阿部 勇人
- 創立
1988 (昭和63) 年
- 資本金
3,000万円
- 従業員数
10名
- 事業内容
データ復旧サービス、データ消去サービス、上記に付帯する各種サービス
- URL
<http://www.data-salvage.co.jp/>

地震発生の翌日から 仙台で無償サービス

私はデータサルベージコーポレーションの代表を務めて13年目になります。本社は東京の青山にあります。実は仙台で起業しましたが、私どもの会社は「データ復旧会社」といわれています。パソコンの中にある、ハードディスクといわれるディスクの中から、壊れている個所を修正し、そこからデータを引き抜くような作業をさせていただいています。

今回は被災したパソコンの復旧支援についてご報告させていただきます。

地震発生の翌日、私は地元の仙台を少しでも助けたいと思い、車で乗り込みました。弊社の仙台事務所で、まずは津波で流されてきたパソコンやファイルサーバー、MOディスク、フロッピーディスクなどをお預かりすることから始めました。平常時で

は、水没した記憶デバイスが私どもの会社に届くことは、年に一回あるかないかです。しかし震災後の仙台事務所に届くのは、90%以上が水没したデータです。津波の被害を受けたパソコンやハードディスク、ビデオカメラなどがどんどん山積みになっていきました。

私どもはこのサービスを無償で行っていたのですが、当初はそのつもりではありませんでした。しかし被災した仙台市内で、温かいご飯と味噌汁を無償でサービスしている焼肉屋さんに出会い、とても感動しました。こうした温かい気持ちを見てしまった以上、私どもも無償で対応すべきだと思った次第です。

東北大学で海水被害からの 復旧を研究開発

しかしサービスを行う上で問題だったのが、ハードディスクは水道

水ではなく海水に水没したという点です。この場合は塩分などの処理が必要になるのです。しかし、世界的に見ても、津波で流されたハードディスクの復旧は例がなかったものだから、私どもも技術を持っていませんでした。悩んでいたところ、東北大学の先生と出会う機会があったので、大学のクリーンルームや薬溶剤などを開放していただけないかとお願いをしました。すると先生は、「こんなときこそ、研究機関である大学は施設を開放するべきだ」とおっしゃってください、研究室を開放してくださいました。こうして、海水の被害に遭ったデータ復旧の研究開発を進めることができるようになりました。

資料は東北大学の研究室内で実際に使われていた機材です。ハードディスクに付着した白いもの、これが海水ですが、この部分をどう除去をするのが問題です。私どもは9時から20時までには仙台事務所でお客様の電話サポートと受付をし、20時からのご提供いただいた東北大学の片平キャンパスで洗浄工程の研究を行いました。

お問い合わせは今まで経験したことがないものばかりでした。たとえば、津波で会社が流されてしまったけれど、3月末の決算を終えない限り、次の復興を行うこともできないから、会計データを助けてほしいという経営者の方々がいらっしゃいました。ほかには、取引先の売掛データがパソコンにあるため、何としてもデータを取り出してほしいという依頼もありました。さらに、社員の名簿をパソコンで管理しているので、連絡が取れなくて困っているというご相談もありました。

しかし一番辛かったのは、残念な



東北大学の研究室で実際に使われていた機材。世界でも例のない海水の被害からの復旧を研究した

がら安置所で遺体として見つかったしまった家族の思い出の写真を、パソコンの中から取り出してほしいというお問い合わせでした。塩釜市のある写真家の方からは、小学校の卒業アルバム用の写真データを復旧して、子どもたちに卒業写真を渡してあげたいとご相談をいただきました。東北大学での研究により、写真を無事復旧することができ、卒業式にも間に合いました。たった一つのハードディスクから笑顔がよみがえった瞬間でした。

一枚の写真に宿る 星の数以上の思い出

この出来事が、水没したデータの復旧が確立されたという情報とともにマスコミ各社で報道されました。それにより、水没したハードディスクがさらに寄せられるようになったのですが、ある日、驚くようなものが届きました。それが病院のサーバ（一本のハードディスクを複数のハードディスクに書き込むことでスピードや容量を拡張させるための



震災を免れた、30年前の阿部氏と父親が写る写真。一枚の写真に詰まった思い出は星の数よりも多い

機械）です。サーバの中にあるのは、患者さんのカルテや心電図のデータなどです。大変な作業でしたが、会社の枠を超えて心あるデータ解析のスペシャリストたちが集まってくれたことにより、無事に病院のデータを救うことができました。

しかしそんな折、私の父が震災による心労で他界してしまいます。やりきれない思いでしたが、父親が写っている写真を見たとき、写真の力の大きさを改めて感じました。たった一枚の写真でも、そこには星の数以上の思い出が存在するのです。

私どもの仕事は、もしかしたら10年後には存在していないかもしれませんが。しかし、データ復旧を願う方々がいる限り、尽力するのが私どもの使命だと思っています。私は、実はCSRについて考えたことがありませんでした。しかし、復旧支援をしてみると、それがいつの間にかCSRになっていたのです。これから多くの方のお役に立てるよう、技術の研究開発を進めていきたいと思っています。